

街道を歩く

草津宿 (守山宿より1里半)

中山道と東海道の分岐点、追分の宿として参勤交代の大名や伊勢参りの旅人で賑わった。また琵琶湖の矢橋湊へ至る矢橋街道の分岐点。信長が足利義昭に何かほしいものがないかと尋ねられると「堺と草津がほしい」と答えたという逸話が残るほど交通の要衝であった。街並南北7町15間、東西4町38間(本陣2、脇本陣2、問場0、旅籠72)。



追分道標
トンネル(まんぼ)
明治19年建設される
長さ42m、巾4.5m
高さ3.6m

田中七佐衛門本陣
(草津本陣)

田中七佐衛門本陣 (草津本陣)

寛永12年(1635)から明治3年(1870)廃止まで本陣を勤める。嘉永6年(1853)の屋敷図によると敷地1305坪、建坪288坪、部屋数39。現存本陣では最大級。建物のほか関札、宿帳が残る。



常善寺

天平7年(735)僧良弁創建関ヶ原合戦に勝利した家康上洛の時ここに宿陣。本尊木造阿弥陀如来坐像。

野洲のさらし

- ① 藁灰を水に溶かし、灰汁をつくる
 - ② 灰汁に麻布入れ長時間煮る
 - ③ 布を洗い、芝生の干し場に晒す
 - ④ しじみ貝を焼いた灰汁を散布する
- 水が乾く時芝生との間にイオン発生晒しができる。野洲川の伏流水と琵琶湖のしじみの組み合わせがよかった。

中山道:野洲一守山一草津

朝鮮通信使街道:野洲(富波乙)一中山道分岐点



祭神石長比売姫、寒川比古命、寒川比女命他。応仁2年(1468)近江守護佐々木高頼の勧請と云われる。洪川村の氏神。現名称は明治2年からそれまでは洪川大将軍と云われる。祭神3種の頭文字をとって“いささ(伊砂砂)”との伝え。

伊砂砂神社

大井路道標

寛善寺門前に道標。明治19年以後ここが中山道と東海道の分岐点となる。

追分道標(火袋付き道標)

脇本陣仙台屋跡(観光物産店)

草津宿街道交流館

立木神社

土橋

寛文年間(1661-73)瀬田唐橋の古材で架けられた公儀御普請橋。長さ20間。広重の絵この風景。

ここに高札場があった

源内塚

天満宮

石道標

東門院

樹下神社

甲屋跡

土橋

道標

東海道石部宿へ

JR守山駅

祭神物部布津神他

大化5年(649)物部宿禰広国

祖神を祀り物部郷の惣社とした

境内の竹を旗竿にすると勝運ありとの伝え。

現在の本殿は佐々木高頼再興

勝部神社

今宿一里塚跡

閻魔堂

十王寺

住連坊母の墓

諏訪神社

境内に淀藩の榜示石

中山道:近江路9宿一⑧

守山宿 (武佐宿より3里半)

中世には近郊農村の産物売りの市ができ物資集散の機能を持つようになり商業の町として発展。東門院の門前町として賑わった。江戸時代は“京たち守山泊り”といわれ、京発った旅人の1日の行程が守山宿で、宿泊地となり旅人で賑わったという。街並は今宿、吉身の加宿合わせ11町53間余。桜と源氏螢の飛び交う美しい宿であった(本陣2、脇本陣1、問屋場3、旅籠30)。

鎌倉時代のもの

背くらべ地藏

蓮照寺

境内に中山道と朝鮮通信使街道の分岐道標あり

享保4年(1719)

十輪院

明暦3年(1657)徳允居士が開いた

お堂。黄榮宗寺院。夜川を渡る旅人のために灯りをつけたという灯籠

(天明5年(1785))がる

本尊地藏菩薩、聖観音菩薩

境内に芭蕉句碑

野洲川や 身は安からぬ さらしうす”

慈眼寺

伝教大師が唐からの帰り、嵐に遭ったが十一面観音が現れ船を救ったという。大師は帰国後帆柱で観音を彫り祀り、一堂を建てたのがこの寺。本尊帆柱観音。旅の安全を守る。

甲屋跡

本陣で謡曲「望月」の舞台とたつた宿屋。望月秋長に追討された信濃國安田友治の家臣小沢友房が仇の情報を得るために守山宿泊っていた。偶然にも亡君の妻子が宿を求めてきた。更に思いがけないことに望月秋長も泊り会わせたことから3人で力を合わせ秋長を討ち本陣を遂げる。

東門院

社伝によると延暦7年(788)最澄が比叡山寺のち延暦寺創建するに東西南北に門を構えたその1つここ守山寺といわれた。東にあたるので東門院よばれる。比叡山の東門として山をすることから守山と名付けられたという。延暦15年(795)坂上田村麻呂が東征の時勝利を祈願したとの伝え残る。朝鮮通信使の宿所となっていた。



あきやま

平成 16 年 01 月 20 日